

レーザー荒天時の安全マニュアル

① 出艇前の艀装のセッティング

海上で沈をした時にメインシートが抜けないようにブームエンドの紐の結び(エイトノット)を確認する。

メインブロックのストッパーの位置はバイザリーの位置ではなくメインシートがブームより90度以上出ないよう位置まで短くしておく。このセッティングをしておくことでフリーを走っているときにメイン出過ぎによるアンヒール沈を防ぐことができる。

② 出艇時

セイルのコントロールロープ(カニングム・アウトホール)を引いておく。セイルを浅くしておく事で出艇時のオーバーヒール沈を減らすことができる。

③ 着岸時

南風の場合はランニングでの帆走となるので浜から20～30メートル手前でメインシートを抜いてベアポールで流されながら着岸する。この時メインシートは完全に抜かずに艇をコントロールしながら進むのがポイント。





トラベラー側のシートを外してブームエンドブロックの手前で簡単にほどけるようにコブを作っておくことでメインを少し引き込みながら艇をコントロールして着岸ポイントにたどり着くことが出来る。バングも完全に抜く。

④ 沈への対応

フリーのアンヒール沈はメインシートが出過ぎてしまうことで起きるため、先述のようにメインシートのストッパーを90度よりも前に出ないようにセッティングしてアビーム気味の角度で安定して走らせるのがポイント。オーバーヒール沈をした場合はバングを緩めることでマストバンドを減らすとともにセイルのテンションを減らし艇が起こしやすいようにする。

⑤ デイスマスト(トップマスト)

折れるケースとして一番多いのがジョイント部分。ここから折れた場合はセイルが破けてしまう可能性が高い。カニンガムのテンションを緩めてマストトップをたらしどこかに固縛するか、ブームエンドとマストトップを片手で持ちながら残ったセイル面積を利用して帆走する。スピードは落ちるが風上にも風下にもある程度向かうことが出来る。



(写真はイメージ)

⑥ デイスマスト(ボトムマスト)

ボトムマストが折れる個所としてはマストホールの接触箇所とバングの付け根の2か所。マストホールの部分はプロテクターをつけることでクラックを軽減することが出来る。バングの付け根については特にクローズからフリーに落とす時にバングを緩めていない、

フリー帆走中に急にセイルに大きなパワーがかかることが原因となるケースが多いためバングを出来るだけ緩める事を心掛ける。

<折れた場合の対処> (※他のレーザーセイラーの経験談を引用)

- ・ブームをマストから外してシート類で固定。
- ・マストを倒しセイルを手で持った時に風がはらむ程度までリーフする。
- ・マストもシート類で固定して艇から離れないようにしてリーフしたセイルで風をはらませながら帆走して戻る(基本はアビーム)

⑦ デイスブーム

強風でブームが折れると折れたブームが暴れて非常に危険なのでブームを外す。暴れるブームをそのまま外すのが難しいようであれば半沈させてセイルのバタツキの無い状態で外す。

角度的にアビームより落とした角度で浜に戻れるのであればメインシートを直接メインのクルーからトラベラーに取って帆船のようにして戻る。



⑧ ティラー破損

ティラーが折れても長さが30cm程度残っていればそこを手でつかんで帰れるが、根元から折れた場合はラダーヘッドの中のジョイントを抜いて折れた残りのティラーを突っ込むか径が合わない場合などはエクステンションを突っ込んで代替とする。

⑨ ラダー外れ

ラダーストッパーがピンドルの角に当たらずにピンドルの上にある場合はキャプサイズの際にラダーが外れてしまう可能性がある。外れた場合は外れたラダーが沈まないように即座に確保する。荒天時に揺れる艇の上からラダーを入れるのは大変なのでラダーブレードをしっかりとって下のガジョンにしっかりと入れるようなイメージで装着する。

もしくは体を艇の後ろに置いて自分の足をガジョンに並行に海中に入れその足にラダーを押し当てながらまっすぐ入れる。

⑩ レスキュー要請

優先順位としては

1. 一緒に練習しているレーザーに曳航してもらう。
2. 近くにいるレスキュー艇を呼ぶ。
3. 近隣のマリーナ施設、最悪は海上保安庁に携帯電話で助けを求める。

1も2も駄目な場合、3の緊急連絡先としてはマリンボックス(046-872-1550)、葉山新港(046-875-1504)、葉山マリーナ(046-875-2670)のいずれかに連絡して救助可能か確認する。逗葉メンバーとしてはPSJ栗野、逗子在住のメンバー、ウィンドの野村さんの誰かに一報を入れ、レスキュー艇の手配を依頼。最終手段として118(海上保安庁)に連絡し救助を要請する。

最後に

- ・ 出艇前にリベットやボルトが緩んでいないか、ドレインプラグの閉め忘れなど必ず確認
- ・ 風が強い時は沖に出過ぎない。パートナーと一緒に練習
- ・ スパー類は2～3年程度で買い替えた方がベター(ボトムマストは特に！)
- ・ どんな体勢でも沈起こしできるような常日頃から鍛錬(自分の体重を引き上げられる程度)
- ・ 携帯電話は可能であれば防水機能にして海上に持っていく。
- ・ マストの抜け止めは勿論、曳航用などの予備シート、予備のピンリングなども積んでおく
とベター

以上